

俵山インターン 10 周年記念



と き 8 月 16 日（土）18 時～20 時

会 場 俵山小学校体育館（入場無料）

モデレータ 立教大学観光学部 東 徹 教授
（専門：マーケティング、観光、まちづくり、地域振興）

パネラー 過去 10 年のインターン学生

主催：NPO 法人 ゆうゆうグリーン俵山

俵山再発見シンポジウム企画書

1. テーマ

TAWARAYAMA 再発見 —地域の誇りを取り戻す「観光まちづくり」の推進—

2. 開催日、場所

平成 26 年 8 月 16 日（土）18 時から

俵山小学校体育館（入場無料）

3. 主催

特定非営利活動法人 ゆうゆうグリーン俵山

4. 背景

日本創成会議は、全国の市町村のうち約半数が 30 年後には消滅するという衝撃的発表をした。長門市は消滅自治体に入っているが、市がなくなっても住んでいる人がいなくなるわけではなく、少なくとも住民は幸福感を感じなければならないと考える。

そこでふるさと俵山を考える。過疎高齢化は全国平均を上回る勢いで進行し、お年寄りのみの世帯も散見されるようになった。農業も担い手に任せなければならない世帯も多い。不況の波をもろにかぶり観光産業も火の車である。しかし、住んでいる人たちが不幸であるかといえそうでもない。むしろ精神的には幸福なのではないかとさえ思われる。

住民としては、このまま俵山の衰退を見届けるだけでは終われない。田舎であってもまちづくりに成功したところが多い。そのほとんどが「済んでよし、訪れてよし」の観光まちづくりに取り組んでいるといえる。俵山では都市農村交流に力を入れている。特に都会の大学生に対して数週間の農村生活体験を提供しており、卒業生のうち数人が毎年再訪している。そこで、彼らの感性に観光まちづくりのヒントが隠されているのではないか。

俵山の心地良さはどこにあるのか、都会では味わえない田舎の魅力。外からだから見える地域資源は何か。俵山の自然や文化の価値を再発見、再認識し、それらを持続的に活用した観光まちづくりによって地域の誇りを取り戻す。若者たちとの議論を通じてそんな取組につなげたい。

5. 参加者

モデレータ 立教大学観光学部教授 東 徹（あずま とおる） 先生

（専門：マーケティング 観光 サービス まちづくり 地域振興）

パネラー 俵山インターン卒業生（過去 10 年の参加者 34 名のうち帰郷可能者）